

シースルータイプのMRIを用い 初診日に検査・診断・治療を進める

医療法人 古橋会 揖保川病院

**MRIをいち早く導入し
精度の高い診断を目指す**

揖保川病院は50年以上にわたって兵庫県西播磨地域を中心に精神疾患に特化した診療を行ってきた。現在は認知症治療にも力を入れ、薬物療法の他に、音楽療法や回想法などの非薬物療法を取り入れている。精度の高い画像診断で脳の萎縮などを発見するため、MRI検査を早期に導入。筒の中を通る一般的なMRIとは異なり、

外の景色を見ながら検査を受けられるシースルータイプなので、閉所による恐怖を感じるパニック障害の患者にも適している。同院では、早期に治療を開始できるように、検査当日に診断を終えられる体制を整えている。一般的には、検査を終えた後、検査結果を後日伝えられ、治療開始はさらにその後になるケースも少なくないだろう。早期の治療開始は患者とその家族の負担軽減につながる。

認知症治療においては、患者だけでなく、その家族とのコミュニケーションが重要になる。MRI検査は脳の萎縮を視覚的にとらえることができるので、疾患を家族に分かりやすく伝えるのに役立つ。「認知症という診断結果を受け入れるのに抵抗を感じられる方もいらつしゃいます。丁寧にご説明し、信頼関係を作るように心がけています。また、症状は現れていないが脳の萎縮が認められるグループンについては、ご家族にリスクを伝え、発症の予防を促します」と古橋淳夫病院長は話す。

認知症は慢性疾患であり、少しずつ進行し、10数年をかけて重度に移行するケースが多い。認知症の進行に伴い家族の負担もそれだけ大きくなる。同院では患者家族会や認知症家族教室も開催し、治療法や介護の方法、法律などの知識を伝えるように努めている。必要に応じて、併設された特別養護老人ホームや介護老人保健施設への入居を検討することもある。

同院には長年認知症治療に取り組んできた古橋院長をはじめ、日本の認知症治療を牽引してきた京都大学元教授などが在籍し、診療体制の充実を図り、院内教育や講演活動も積極的にしている。「人間愛」の理念を掲げ、「職員一人ひとりが愛情をもって、やさしく接すること」を大切にしていくという。

取材／斉藤雅幸



病院長 古橋 淳夫

ふるはし・あつお ●医学博士。1990年に兵庫医科大学大学院博士課程修了。99年より医療法人古橋会揖保川病院長



シースルータイプのMRI

**「人間愛」を掲げ
スタッフ全員で支援する**

診療科目：精神科、神経内科
受付時間：8:45～11:00(再診は予約制)
休診日：日・祝
病床数：360床
・精神科急性期治療病棟41床
・認知症治療病棟48床
・精神科療養114床
・精神科一般157床

〒671-1688 兵庫県たつの市揖保川町半田 703-1
TEL.0791-72-3050(代) FAX.0791-72-5895
<http://www.ibogawa-hospital.jp/>

